

第2章 ラツィオ州を中心としたヘリ救急の実態

我々3人はローマ県を包含するラツィオ州の3つの基地のうち、ヴィテルボ基地にお邪魔した。以下、当基地を素材にして当州とイタリアのヘリ救急の実態を紹介してみよう。

当州には5つの県と377のコムーネ（市町村）がある。人口は約530万人を擁し、人口規模では上から3番目に大きな州である。ヘリ基地は州内に3箇所ある。北部のヴィテルボ基地、中部のローマ基地、そして南部のラティーナ基地である。北部と南部との距離は250km。運航時間は、北部と南部の基地では午前8時から日没まで、中部のローマ基地は24時間運航体制を敷いている。

ヴィテルボ基地には、医師（麻酔医）、看護師、パイロットと助手、消防士が待機している。このうち、医師及び看護師は州政府の職員である。パイロットと助手は州政府の入札で落札したFreeairなる会社の社員。ヘリの機種はアグスタA109。この機種は小型でスピードが速いのが特色という。

イタリアの救急医療は1992年制定の国の法律によって体系づけられた。118番救急システム（「アレス118」という。）である。救急システムは大きく2つに分かれる。病院外からの通報に応じるものと病院内のアラームに応じるものである。アレス118は病院外からの通報に対応するシステムである。ヴィテルボ基地の責任者タスキオッティ医師によると、そもそもアレス118は政治家が票になるというので考え出したものという。イタリアは政策の90%は政治家が決定する国柄だそうである。このアレス118事業体は県単位に置かれてきたが、ラツィオ州のみ2005年1月1日から州単位に移行した。ローマという特殊な街を抱えているからとのこと。オペレーションセンターの数（104）は、したがって県の数（103）に対応する。ラツィオ州でも、オペレーションセンターは県の数分、つまり5箇所ある。（注：「オペレーションセンター」は前第1章でいう「救急本部」のこと）

1996年、国から、次のような救急医療の時間的基準を定めたガイドラインが示された。

- ① 市街地内の場合：118番受信後8分以内に現場到着
- ② 郊外の場合：オペレーションセンター出動命令後20分以内に現場到着

当然のことながら、①の基準に対応するのは主に救急車であり、②の基準に対応するのは主にヘリコプターである。

ラツィオ州での実績は、出動命令後 1 分 51 秒でフライト、15 分 37 秒で現場到着であった。中々大したものである。ただ、この基準に従う限り南部の一部が 20 分圏外となるため、基地の数を 4 つに増やしたいというのがタスキオッティ医師の見解であった。

2006 年の出動実績は 3 基地合計で 2,070 件、そのうちプライマリーが 960 件で 47%、セカンダリー（転院搬送）が 53%であった。転院搬送が多いのは、いい病院がローマに多いからだそうである。なお、960 件中交通事故は 510 件である。

オペレーションセンターが救急ヘリを呼ぶ基準として次のような定めがある。

- ① 他の交通手段がない。
- ② 病院から離れた地点。
- ③ 生死に係わる外傷。
- ④ 武器による負傷。
- ⑤ 3～5m から落下。
- ⑥ 溺れた場合。
- ⑦ 農作業中の事故。
- ⑧ やけど。
- ⑨ 深い外傷。
- ⑩ 脊椎損傷。
- ⑪ 交通事故。
- ⑫ 車の多数交通事故等。

ヘリと病院間の直接交信はできないとのことで、全てオペレーションセンターを介している。将来の課題であると言っていた。

州予算の 70%は医療関係であるが、経費は全て国の予算で措置されるとのことであった。その財源の一つに、保険会社の収入の 3%を強制的に国庫に納めさせるものがある。これを州毎に分割して助成している。ただ、こうしたことが背景にあってか増税に繋がっているとの批判が出ており、国から来るお金は減額されつつある。したがって、当州ではアレス 118 の職員は 2,000 人いるそうであるが、これを 4,000 人にする案は断念せざるを得なかったという。なお、こうした問題を解決する方法として社会保険をという発想は、負担を嫌がる国民からは出てこないと言っていた。

全イタリアには 48 のヘリ基地があるが、全ての基地で民間会社のヘリがチャーターされているわけではない。ジェノバを含む 3 基地においては消防ヘリが使われている。ラツィオ州においても 1998 年～2000 年までは同様であったが、消防ヘリは山林火災等に出動するため、救急専用ヘリに切り替えたという経緯がある。

エピソード

アグスタ社の某氏に一行 3 人は夕食に誘われた。行った先は、何とも素晴らしい乗馬クラブであった。眼下には青々とした芝生に覆われた馬場が現れた。こうした贅沢なクラブは恐らく日本にはないだろうなあと思わせた。酔うほどに、某氏から意味ありげに「ロベルト」ってご存知ですかと訊かれた。3 人とも「？」。お分かりでしょうか。何と、かつての枢軸国を意味する隠語であった。ローマ+ベルリン+東京の頭文字を取ると、確かに「ロ」「ベル」「ト」となる。「なるほど」と感心したが、この説明を聞いてひとり憤慨する人が一行 3 人の中にいた。「どうしてローマが頭で東京が尻尾なのか！」、怒ること、怒ること。しかし、事ヘリ救急の世界に限れば、東京が尻尾であることは残念ながら事実である。早く「トベルロ」と言われるようにしたいものだと、私は独りごちた。 (篠田伸夫)



ローマ周辺の救急任務に当るヘリコプターは比較的大型のベル 412 であった。

日本では各地の消防防災ヘリコプターとして使われている。

登録記号は欧州航空医療連合の略号と同じ I-EHAC。

キャビン・ドアに大きく描かれた「118」は救急電話番号である。